

有志 竟成

ゆう し きょう せい

活動報告

福島県 佐藤よしのり



県議会臨時会

コロナ対策の補正予算可決

県議会は五月十五日、新型コロナウイルスの感染拡大に対応するため臨時会を開催し、コロナ対策事業費として百十五億七千七百万円を追加する二〇二一(令和三)年度一般会計補正予算などを原案通り可決、承認しました。

昨年5月以来の休日開催

県独自の非常事態宣言発令を踏まえ、酒類などを提供する県内全域の飲食店への営業時

間短縮要請に伴う協力金に九十三億一千四百六十万円、時短要請や外出自粛によって売上げが減少した中小事業者への一時金に十七億八千六百二十九万円、そのほか自宅療養者の支援事業に四千六十二万円、医療機関への支援に四億三千五百万円を計上しました。

本議会の冒頭、内堀雅雄知事が提出議案について説明を行い、各常任委員会に議案が付託されました。各常任委員会にてそれぞれの議案を審議したのち、各委員長報告、全会一致をもって補正予算案を可決いたしました。

六月七日まで延長

県は、五月二十八日に開催した新型コロナウイルス対策本部員会にて、県内の非常事態宣言を解除する一方、会津地域の病床使用率が未だ高い水準にあることから、会津若松市限定として七日までの集中期間とする特別措置の延長を決定いたしました。

協力金や一時金に関するお問い合わせは県時短要請コールセンター(電話024(521)8562)へ。

日々是好日



— 早苗饗 さなぶり —

田植え初めに田の神を迎える行事「早降(さおり)」に対するもので、田植えが終わって田の神を送る行事のこを意味します。先日、我が家も無事に田植えを終えました。数日間の苗箱運搬で、筋肉痛がしばらく続きました(笑)

新過疎法への対応

過疎・中山間地域振興条例改正

プロジェクトチーム

政府は、今後十年間の過疎地支援の方向性を示した新たな過疎法を四月一日に施行しました。

この新過疎法では、七年の経過措置ののち

会津坂下町と湯川村が卒業団体として過疎地域の指定から外れ、財政的に有利な過疎債の発行が行えなくなりま

す。

こうした状況を踏まえ、条例改正に向けた

プロジェクトチームが

自民党会派内に設置され、私はメンバーの一員として条例改正の素案作成に取り組んでいます。

四月二十七日、法政大学の岡崎昌之名誉教授をお招きして開催した勉強会では、過疎地域の抱える課題に対して新過疎法がどのような機能するかなどの疑問点について、積極的

に発言し議論を重ねました。

五月十日および十七日に行われたプロジェクト会議にて素案をまとめ、二十七日の会派役員会で承認を得ることができました。

今回作成された素案は、今後議会内に設置される検討委員会に自民党案として提出され、それをたたき台として修正が加えられ、最終的に改正案として議会に提出される予定です。

「銀山橋」全面開通 県道会津若松三島線

二〇一九年（令和元年）の台風十九号によって通行止めとなっていた会津若松市北会津町と会津美里町を結ぶ県道会津若松三島線の銀山橋が、五月十五日に全面開通いたしました。復旧は国による災害



復旧後の銀山橋（左上）

被害直後の銀山橋（下）
2019年10月13日早朝、県議撮影



復旧事業の対象となりましたが、初回入札の不調によるやり直し、施工業者決定後の事前調査による設計見直しなどで工事の着手が遅れておりました。設計変更によつてさらなる遅れが生じる可能性もあったため、速やかに国の再査定が通

るよう大沼郡選出の杉山純一県議（当時）とともに関係機関に要望を行い、可能な限り早期の開通を目指して参りました。着手からの期間が短かったものの、安全を確保したうえで順調に進捗が図られ、この度の開通を迎えました。



来年8月に完成予定の林業アカデミーふくしまの完成予想図

「林業アカデミーふくしま」が開講

県議となつてからこれまで、本県の森林再生や林業の成長産業化の実現に向けて、これからの林業を担う人材を育成するための新たな研修施設を設けるべきと提唱してまいりました。ようやく、その一歩が踏み出されます。

四月二十六日、郡山のハイテクプラザ多目的ホールにおいて、本年度から市町村林務担当職員や林業従事者等を対象とした短期研修

（リカレント研修）第一弾となる「森林経営管理制度の実務I」を開講しました。今回は、森林に関する法務案件を専門に全

国的に活動されている那須法律事務所の品川尚子弁護士を講師に迎え、「財産権」「森林法憲判決」などをスライドを用いながら説明していただきます。受講者からは、今後



果樹畑で説明を受けました

凍霜害に支援策

補正予算5億5864万円を計上

四月に発生した凍霜害は、ここ会津地方にも大きな被害を及ぼしました。

被害状況が明らかになりつつあった五月十一日、地元の果樹農家に伺いその実態を調査しました。すぐに私が所属する

自民党会派の役員に相談、翌十二日に内堀知事に対する緊急要望を實施し、凍霜害対策および生産農家への救済策を速やかに講じるよう求めました。今回の要望に対して、県は市町村と連携しながら樹勢回復のための肥料や農業などの資材購入に対する助成、来年度以降の防止策への対策費を補助することを決定いたしました。

編集後記

昨年来、人と接する機会を減らすよう求められ、政治活動も新しい生活様式で行うことを余儀なくされました。それでもやはり問題のある現場へ足を運ぶのが政治の務めであり、活動を皆様を知っていただくことも必要です。この紙面で、少しでも私の活動の一端をお伝えできれば幸いです。

本の表紙だけ変えても、中身が変わらなければダメだ

五月二十日は、私が最も尊敬する大政治家、故伊東正義先生のご命日です。

先生は、私がまだ高校生だった頃に母校の会津高校百周年記念式典で祝辞を述べられ、その当時の印象は今もなお強く私に刻まれております。

その内容は、柴五郎陸軍大将や山川健次郎東大総長にまつわるエピソード、日米首脳会談での共同声明を廻る鈴木善幸首相との見解の不一致から伊東先生が外務大臣を辞任したときの想いなどでした。



一貫して伊東先生が語られておられたのは、「信頼」という言葉でした。

が理解できませんでしたが、リクルート事件によつて失われた政治への信頼を回復するために、先生がどれほど心を

砕かれていたかと思うと、いまでは想像に難くありません。伊東先生が外務大臣を辞したのも五月、伊東総理待望論に対して「本の表紙だけ変えても、中身が変わらなければダメだ」と言い放ち断つたのも五月、そして伊東先生がお亡くなりになられたのも五月。低い投票率が表すように国民の政治離れが著しい昨今、鶴ヶ城三の丸にたたずむ先生の像の前で、毎年この日は花を手向けながら伊東先生の言葉を思い起こします。